



# 動物レスキュー通信

2017年7月 第50号 (平成29年7月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長  
愛玩動物飼養管理士 一級  
ペット災害危機管理士 三級  
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

## 飼い主と動物の高齢化問題 進化するサービス



現在、ペットブームが続いていますが、犬猫の飼育総数は徐々に減ってきています。一般社団法人ペットフード協会が発表した2016年全国犬猫飼育実態調査結果では犬猫の推計飼育頭数全国合計は1972万5千頭でその内訳は犬が987万8千頭、ネコが984万7千頭となっていて猫の飼育頭数は横ばいなのにに対し、犬の飼育頭数は減少傾向にあります。(図1)その主な理由としては1、集合住宅に住んでいて禁止されている(28.8%)、十分に世話が出来ない(25.4%)、3、お金がかかる(23.7%)、4、死ぬとかわいそう(22.8%)、5、別れがづらい(22.8%)などの理由があります。そして年代別の飼育現状としては犬猫共に50代が一番飼育率が高く70代が最も低くなっています。(図2)その理由としては日本の社会問題ともなっている高齢化の問題。飼い主さんが高齢化している事と、ワンちゃんネコちゃんの寿命がのびているため、日本人の体力や病気の事なども合わせて考えると、飼っているワンちゃんネコちゃんを亡くすと、次は飼えない状況になる飼い主さんが多いという事です。その他にも各自自治体の動物愛護センターやボランティア団体などが行っているワンちゃん、ネコちゃんの譲渡会などでは団体によって条件は様々ですが、子猫、子犬は60歳くらいまで、成犬、成猫は65歳くらいまで、などと譲渡できる年齢を制限している事も関係しています。人間と同じで、ワンちゃん、ネコちゃんの寿命も確実にのびています。

図1

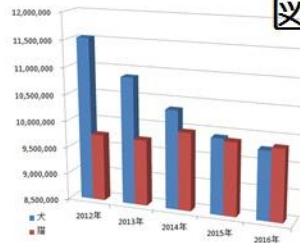
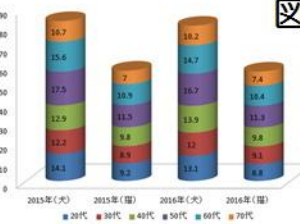


図2



その要因は飼い主さんの意識が向上した事他に食事の変化、生活環境の変化そして獣医療の向上があります。寿命がのびただけ飼い主さんの負担や責任も増えていると言えます。しかし飼い主さん自身の寿命ものびている分だけ、病気になる途中でワンちゃん、ネコちゃんの面倒をみられなくなったりする事があるようです。ワンちゃん、ネコちゃんの飼育が不能になってしまい、東京都にその引き取りを依頼した飼い主さんの約6割が健康問題を理由にあげていて、その多くが高齢者でした。そこで飼い主さんが長期入院しないといけなくなりました場合や亡くなってしまう場合にも、飼い主さんが安心できるようにサービスが増えています。

### 具体的サービス例

●互助会 引越しや転勤、飼い主さんの病気などの理由で飼えなくなってしまう

たワンちゃん、ネコちゃんを引き取り終生飼育してくれたり、里子希望の場合は里親さんを探してくれます。里親が見つからなかった場合には互助会が終生飼育してくれるそうです。●有料老人、老猫ホーム 人間の老人ホームと同じく有料でワンちゃん、ネコちゃんをその命が全うするまでお世話してくれます。入居と同時にワンちゃん、ネコちゃんの所有権はホームに移転する事になりますが、もし病気が完治したなどの理由で再び飼い主さんの環境が整った場合などにはすぐにワンちゃん、ネコちゃんを返してもらおう事が出来ます。又、ホームにいる間、ワンちゃん、ネコちゃんには自由に会いに行く事が出来るので、飼い主さんとワンちゃん、ネコちゃんの絆を完全に切らなくてもいいという事は、飼い主さんにとっても非常にメリットがあるように感じます。●ペット信託 飼い主さんの死後に備えてワンちゃん、ネコちゃんの飼育を任せる事が出来る人を選定し、飼育費として財産を残す仕組みです。飼い主さん自身が要介護になったり、老人ホームに入所しなくてはならなくなったり、亡くなってしまう場合でも、ペット信託をする時点で新しい飼い主を決定し、お世話は信託資金で賄われますので、安心できます。●ペット飼育支援 入院や老人ホームへの入所までには至っていないが、体力的な問題などでワンちゃんの散歩やお世話、病気への対処が困難になつてしまった飼い主さんに対して、自宅へ訪問して飼育支援を行うサービスもあります。このように、社会問題や飼い主さん達の声にこたえる形で様々なサービスが生まれていっていますので、飼い主さん自身、そしてワンちゃん、ネコちゃんに合ったサービスを活用する事で飼い主さんも安心でき、不幸なワンちゃん、ネコちゃんを増やさない事にも繋がっていくと信じております。(詩月)